

## 「臨時増刊号」 刊行にあたってのご挨拶

1995年1月17日未明、兵庫県南部を襲った阪神・淡路大震災(兵庫県南部地震)は、神戸・西宮・芦屋・宝塚・淡路島を中心に5,500人を超す貴い人命を奪い、負傷者数約3万7千人、家屋の全半壊戸数約19万戸、被災者数約32万人という戦後最大の災禍をもたらしました。

社日本土木工業協会・関西支部は、何よりもまず、このたびの大震災で帰らぬ人となられた方々のご冥福をお祈りするとともに、今なお悲しみの中にあるご遺族の方々、筆舌に尽くしがたい困難の数々に直面されている被災者の方々へ心よりお見舞いを申し上げます。

あわせて、被災地域での献身的なボランティア活動続ける皆さまに心よりの敬意を表したいと存じます。

淡路島北部を震源として大都市の直下を襲った、M7.2のこの激震は、多数のビルを倒壊させ、都市の動脈ともいえる道路・鉄道・橋脚などの構造物、電気・ガス・水道などのライフラインに想像を超えた大きな被害を与えました。

これらの復旧作業は、地震発生から約半年過ぎた今もなお、被災地域の各地方自治体・国および関係者各位の皆さまの懸命の努力の中で進められています。

私たち建設業界も、被災地域の一日でも早い復興を目指して、微力ながら、その持てる力を可能なかぎり投入してきたところです。

社日本土木工業協会 関西支部はこれまで毎年1回、広報誌「しびる」を発行してまいりましたが、この阪神・淡路大震災の被害の甚大さ、復旧活動の緊急性・重要性、問われる防災態勢の見直し…などに鑑み、同誌臨時増刊号を刊行し、会員各社が震災直後から約3カ月の間に行った各種復旧(支援)活動および被害の実態を誌面が許すかぎり記録しておこうと考えた次第です。

関係各位の皆さまが被災地域の復興計画、地震国である我が国における防災計画を考える上で多少なりともご参考になるなら、これ以上の幸せはありません。

社団法人 日本土木工業協会 関西支部  
広報委員長 名村 英紀

## CONTENTS

|          |    |
|----------|----|
| 座談会      | 3  |
| 被害MAP    | 11 |
| 被災DATA   | 15 |
| 道路       | 17 |
| 河川       | 19 |
| 鉄道       | 21 |
| 港湾       | 23 |
| 大震災復旧の記録 | 25 |